

## 地域計画

策定年月日	令和7年3月26日
更新年月日	( )
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	尾花沢市 ( `06212 )
地域名 (地域内農業集落名)	宮沢地区 (正厳 上ノ宿、丹生 安久戸、行沢 中島 押切、高橋、中刈、関谷 矢越、岩谷沢 市野々)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域及び農林業センサスの農業集落名を記載しています。

### 1 地域における農業の将来の在り方

#### (1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	1076 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	917 ha
② 田の面積	772 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	125 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	8 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	93 ha
(参考) 区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載しています。

2:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積、⑤については、引き受ける意向のある農地面積を記載しています。

#### (2) 地域農業の現状及び課題

当地区においては、水稻を中心に、すいか、そば、露地野菜、花き(啓翁桜)、葉たばこ、山菜等の栽培や、一部で畜産経営(繁殖牛・肥育牛)を組み合わせた複合経営を行っている。しかし、農業者の高齢化も進んでいるうちに、個々の農地面積が小さく点在して作業効率が悪い地域もあることから、離農する農家も多く、担い手が十分確保されているという状況ではない。

当地区内においては、離農した農地を地元の担い手(法人及び個人)が集積している地域もあるが、今後も担い手が農地を集積していくためにも、分散する農地の集約化を図り、作業効率を上げていく必要があると考える。

また、基盤整備済みの地域もあるが、地区内には未整備地域もあり、そういった集落・地域では10~20a区画の水田が多く、かつ農道が狭く大型の農業用機械が入れない状況であるため、集落・地域外からの担い手の呼び込みが難しい状況となっている。

受け皿となる担い手については、多様な人材による新たな担い手の発掘・育成が急務となっている。

#### (3) 地域における農業の将来の在り方

当地区においては、規模拡大の意向を示す耕作者も多いので、水田が10a~20a区画が多い地域では、今後、基盤整備の検討を進めることとし、地域内外の担い手を受け入れやすい環境づくりを進めることとする。

当地区では、離農した農地を地区内の法人や個人等が集積を進めている地域もあるが、今後、そういった経営体を維持・発展させていくためにも、法人経営体を中心に、新規就農者の受入体制の整備に取り組んでいくこととする。

また、当地区内の未整備地区(山間地域)でも栽培可能な高収益作物の導入の検討を行うとともに、基盤整備済みの地域においては、将来的に生産効率の向上を図るため、スマート農業への取り組みも目指す。

さらに、当地区内では、棚田や清流を活用したブランド米の生産に取り組んでいる地域もあるので、今後も地域の特性を生かした農業を継続していくためにも、市や関係機関と連携して、多様な担い手や新規就農者の発掘・育成に取り組んでいく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
<p>地域計画の実現に向けて、農地中間管理事業等を活用して、農用地について担い手への集積・集約化を促進し、農用地の効率的かつ総合的な利用の促進を図る(目標年次は、概ね令和9年度)。                  平坦地域においては、ほ場整備事業によるほ場区画の大型化を図り効率的な生産を推進。中山間地域では、担い手への農用地の集積を推進し、遊休農地の解消に努める。</p>			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	68.8	%	将来の目標とする集積率
			80 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
<p>地域計画策定に係る地域の話し合いなどで合意形成を図りながら、担い手への農用地の集積を加速するとともに、面としてまとまった形での農用地の集約化を進めることにより、団地面積の増加を図る。</p>			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積・集団化の取組	
<p>地区内の担い手(法人及び個人)によって、農地の集積が進んでいる地域・集落もあるが、農作業の効率化を図るため、今後は担い手間での農地の交換などによる農地の集約化に取り組むことが必要と考える。                  また、担い手が少ない地域では、今後、集落・地区外から担い手を呼び込むことで、農用地の集積・集約化を図るため、基盤整備などの条件整備を行うことを検討していく。</p>	
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
<p>農用地の効率的な活用及び低コスト化を図るため、農地中間管理機構を活用して担い手への農用地の集積・集約化を進めていく。</p>	
(3) 基盤整備事業への取組	
<p>現在、地区内で基盤整備への取り組みを具体的に検討している地域もあるが、今後も小區画の水田が多い地域では、農家負担ゼロの「農地中間管理機構関連農地整備事業」による基盤整備の活用も含めて、今後検討を進めていく。</p>	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
<p>市や県などの関係機関と連携を図りながら、多様な経営体や新規就農者の発掘・育成に取り組んでいく。                  可能な限り地域・集落内での確保・育成を進めつつ、地域・集落内の担い手の状況によっては、地区外からの受け入れも行って確保・育成していく。                  また、法人経営体を中心とした新規就農者の受入体制の整備にも、今後取り組んでいく。</p>	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
<p>転作作物の「そば」を、効率的に生産コストを下げ生産するため、今後も転作組合や法人等を活用していく。</p>	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

✓	①鳥獣被害防止対策	✓	②有機・減農薬・減肥料	✓	③スマート農業		④輸出		⑤果樹等
	⑥燃料・資源作物等	✓	⑦保全・管理等		⑧農業用施設		⑨その他		

【選択した上記の取組内容】

- ① 獣被害が多発しているため、電気柵の設置や集落内で協力して追い払いを行う等により被害の軽減を図っていくが、より効率的な対策を図るため、今後は地域が一体的に電気柵の設置等を行うことなども検討していく。
- ② 農薬の使用を抑えると共に、畜産農家と連携して堆肥の散布等を推進して、減農薬・減化学肥料に取り組んでいく。
- ③ ドローンによる薬剤散布などから取り組みを進める。
- ⑦ 中山間地域等直接支払交付金や多面的機能支払交付金を活用した取り組みとして、今後も除草による農地の保全や水路の管理などに取り組んでいく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
	別紙のとおり		ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計			ha	ha		ha	ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利」の属性を記載しています。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載しています。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1	そば作り振興会	播種、収穫、乾燥調製	そば
2	農事組合法人魁	播種、収穫、乾燥調製	そば
3	玉野東部営農組合	播種、収穫、乾燥調製	そば
4	鶴巻田そば営農組合	播種、収穫、乾燥調製	そば

6 目標地図(別添のとおり)